博物館だより

彦根城博物館　☎ 22-6100・FAX 22-6520
URL http://longlife.city.hikone.shiga.jp/museum/

開館時間　8：30～17：00（入館は 16：30まで）

テーマ展

【開催中】～8月28日㈫

「戦陣の装い」

甲冑（かっちゅう）をはじめ、旗印や陣太鼓、采配（さいはい）など、戦においては様々な武器武具が用いられました。井伊家に伝来した軍装の数々を一挙公開します。

▶井伊直孝所用具足

◀黒塗北斗七星文陣太鼓

8月の休館日はありません。
※8月28日㈫～30日㈭は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

常設展示の名品

ほんもの との出会い

― 常設展示の名品―

常設展示「"ほんもの"との出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に80点あまりを展示しています。

8月27日㈪まで展示中　**保元物語・平治物語**

▲保元物語・平治物語（部分）

鎌倉時代に成立した有名な軍記物を江戸時代に書写したもの。金銀泥（きんぎんでい）を織り交ぜた鮮やかな挿絵が描かれています。

文化プラザだより

ひこね市文化プラザ☎26-8601・FAX26-8602

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター　☎27-5200（9:00～19:00）
インターネットでも購入いただけます。http://bunpla.jp/

★★★ 注目のイベント ★★★

8月19日㈰ 14:00～
ワールド・ミュージック・トリップ 特別企画　ロビーコンサート
「カンランと世界の楽器」

8月24日の多国籍バンド「アレ・メッレル・バンド」公演のプレ企画。
北欧音楽をベースにした独特の世界観を醸すカンランによるコンサートに加え、トリタニタツシ氏が所有する珍しい世界の楽器の紹介と解説もお楽しみください。

自由　一般500円　WMT会員400円【発売中】
中学生以下無料（未就学児童入場可）　※定員100人

9月22日㈯・祝　16：00～　グランドホール
OEK♪ひこね　Cool Japan Concert episode.6
「これが井上道義の交響楽だ！2012 ― 井上道義 & OEK」

OEK♪ひこねシリーズ第６弾は、シューベルト「未完成」とベートーヴェン「田園」の重厚な二大交響曲をお届けします。昨年の記憶も新しいOEKの音楽監督である井上道義さんが登場。今回も曲間等に曲目の解説をしていただけます。

指定　S席5,300円　A席4,800円　学生席2,000円
OEK会員S席4,500円　A席4,000円　【発売中】

携帯メール会員募集 !!
会員限定の特別価格情報などを配信（一部イベント）
※右のQRコードから登録してください。

8月の催し

「ジュニア歴史テナライ塾」

8月 4日㈯　戦国時代講座Ⅱ「彦根の戦国武将・石田三成」
場所：ひこね市文化プラザ　10：00～
8月12日㈰　戦国時代講座Ⅲ「フィールドワーク」
場所：佐和山　9：30～説明の後、登山
対象：小中学生とその保護者
自由　※各回300円（各回先着50人）【受付中】

8月24日㈮ 19：00～　エコーホール
ワールド・ミュージック・トリップ vol.7
多国籍バンド**「アレ・メッレル・バンド」**
同日開催「世界音楽夏祭り」
指定　一般3,900円　WMT会員3,300円
SP会員2,000円　【発売中】

最新チケット発売情報

10月4日㈭・11日㈭・18日㈭　19：00～　メッセホール
ひこね市民大学講座　歴史手習塾　セミナー13
「謎解き　関ヶ原合戦」
講師：桐野作人（歴史小説・時代小説作家、歴史研究家）
自由　一般3,000円　SP価格1,800円　【発売中】

11月 9日㈮　19：00～　エコーホール
OEK♪ひこね　Cool Japan Concert episode.7
「風渡る～田中健&OEK弦楽メンバー」
指定　一般3,500円　OEK会員2,900円　SP会員1,500円　【8月5日㈰発売】

11月11日㈰　16：00～　グランドホール
ワールド・ミュージック・トリップVol.8
アルゼンチンタンゴ**「タンゴエモーション」**
指定　一般4,500円　WMT会員3,800円　SP会員2,000円　【8月5日㈰発売】

※SP会員…スチューデント・パスポート会員（登録無料の学生会員）
※WMT会員…ワールド・ミュージック・トリップ会員
※OEK会員…OEK♪ひこねサポーターズ会員

8月の休館日　6日㈪、13日㈪、20日㈪、27日㈪

ときの玉手箱 ～博物館からのメッセージ～

第192回

軍扇と武将

『平家物語』の有名な一段、那須与一（よいち）が活躍する「扇の的（まと）」。源平の屋島の合戦において、源氏方の与一が、平氏方の軍船に掲げられた扇の的を見事射落とし、両軍とも感嘆した1節があります。この軍扇は、「みな紅の扇の日出したる」。つまり、全面紅地に日を描いた扇でした。色鮮やかな扇が、空に舞って白波の上に漂う姿は、さながら、1幅の絵画のようであったことでしょう。

軍扇とは、武将が陣中で軍勢を指揮するのに用いた扇で、重要な武具の一つに数えられます。軍陣の作法が決められていく中で用途も広がりました。

今回紹介する軍扇（写真1・2）は、色は異なるものの、平家物語に見る扇を思わせるものです。時代は下りますが、彦根藩井伊家10代直幸（なおひで）（1731～89）の甲冑（かっちゅう）の付属品として伝わりました。

地紙の表面は、紅色の紙に、日をあらわす円の部分を残して金箔（きんぱく）を貼（は）り付け、裏面は、紅色の紙の地に銀箔を貼り付けて月をあらわしています。

8本ある骨のうち、両端の親骨2本が太く、それぞれに九曜（くよう）文と北斗七星文とを透かし彫りであらわしています。そして、骨を束ねる要（かなめ）の部分には、鵐目（しとめ）を入れて革緒（かわお）を通し、手首に通して落ちないようにする腕貫（うでぬき）の緒としています。

日輪（にちりん）、月輪（がちりん）、九曜、北斗七星は、いずれも天体をあらわしています。天文は神仏や占いと深く関わるもので、武将たちは、生死を分ける戦場で用いる武器や武具に、その信仰や祈りを文様の形で表現したのです。これらの文様は、特に戦国期の甲冑や刀剣にもよく登場します。

▲写真１　日月図軍扇（表）

▲写真２　日月図軍扇（裏）

徳川家康は、晩年、興味深い言葉を残しています。―軍陣では勇気を主として攻めるのが良く、勝敗はその時の運次第である、必ず勝とうと思っても勝てず、あまり思わなくても勝つこともある、考えすぎるとかえって損である―。

また、文明14年（1482）に書かれた伊達氏12世成宗（なりむね）筆と伝える秘書には、日の吉凶は天が決めるものではなく、人の行いで善悪が決まる、とあります。

2人は、占いや信仰を否定したわけではありません。家康の遺品にも天体や神仏に関わる文様が見受けられますし、成宗の秘書には、あらゆるものを陰と陽に分ける陰陽五行説に関わる記述が随所に見られます。戦国期は、天に武運長久を祈る信仰を続けながらも、自力で運を切り開く合理的な思考も広がった時代でした。信仰世界と現実世界との混沌（こんとん）の中、武将たちは、両世界の価値観を胸に戦場に臨んだのです。

井伊直幸は泰平の世に生きた人で、その世界観はさらに変化したはずです。鎌倉時代、戦国時代、そして江戸時代へと、それを使う人間の考えは変化しても、軍扇の形式は、固有の形を保ちながら変わらずに受け継がれていったのです。

（彦根城博物館学芸員　髙木文恵）

写真の作品は、テーマ展「戦陣の装い」で7月27日㈮から8月28日㈫まで展示しています（期間中無休）。